

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	おひさまdekiru Kinder		
○保護者評価実施期間	2024年 11月 1日		2024年 11月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28 (回答者数)	23
○従業者評価実施期間	2024年 11月 1日		2024年 11月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2 (回答者数)	2
○事業者向け自己評価表作成日	2024年 12月 5日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童や保護者のニーズに合った支援計画を作成し、職員全員で支援に取り組んでいる。	職員は児童の事を観察し、保護者と定期的に面談を取りながら今の支援内容を共通理解した上で計画を作成し、個人課題ファイルに貼り付け内容を確認しながら取り組んでいる。	児童の支援内容を職員全体で把握するために、個人のスケジュールボードに今の支援内容を記載する事で職員の意識を高めて行く。
2	保護者が子育ての悩みを相談できる環境を直ぐに提供できる。	職員は日頃から、保護者の表情や言動などを確認しながらまずは一声掛ける様に話しやすい環境を作っている。	得た情報は職員間で共有し、話し合いを設けて次にどのような声掛けをすればいいのか、又は専門家に繋げるのかを検討していく。
3	児童が楽しいと思えるプログラムやイベントを提供している。	プログラムリーダー、イベントリーダーのもと他の職員と話し合い職員の担当を決め、内容に偏りが出ない様に常に新しいことに挑戦している。参加しやすい様に視覚支援を使い分かりやすく伝えている。	季節のイベントや地域の活動にも積極的に参加しながら、児童が楽しいと感じる取り組みを行っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ブレイルーム内での児童の様子をもっと保護者に見ていただく仕組み作りが必要。	ご利用時には児童の様子をHUG上で報告はしているが、児童の様子を実際に見ていただく機会は少なくなっている。	利用時のお迎え時間より早めに来ていただき、活動や遊んでいる様子、職員の対応している姿を見てもらう事で安心感をもって頂く。
2	児童と保護者と一緒に取り組める活動を設けていく。	プログラム活動など、ご家庭でも取り組める内容も多くあるが、保護者に周知出来ていない。	プログラム活動を行う中で、保護者参加型の活動が出来る日程を決めて、気軽に児童と一緒に取り組める様な工夫をしていく。
3	幼稚園や保育園(所)などと支援内容を共通しながら児童の支援に取り組んでいく。	幼稚園や保育園(所)と、おひさまとの時間帯が合わないため職員同士で児童についての話がしづらい。	送迎時などを利用しながら、担任の先生と話す機会を作る。又はアポを取り連絡を取り合える様に進めて行く。